

干潟を歩く

～千葉県行徳鳥獣保護区 観察会～

松田美恵子

(市民科学研究室・会員)

10 月 5 日(日)、千葉縣市川市にある『千葉県行徳鳥獣保護区』の観察会に参加しました。

保護区の保全活動をしている「NPO 行徳自然ほごくらぶ」が主催しているものです。この保護区は、開発で次々と失われて行った干潟を回復・保全しようと、昭和 40 年代に湿地帯を造成して保全されてきた地域だということです。隣接して、宮内庁の『新浜鴨場』があり、両方合わせて、『行徳近郊緑地特別保全地区』となっているそうです。

保護区には、普段は立ち入ることはできませんが、観察会の時は、中に入って野鳥や植物、干潟の生き物などを観察することができます。

この日も地元の方々など、十数人が集まっていました。保護区の入り口から中に入り、ぐるっと干潟を一回りして歩きました。「NPO 行徳自然ほごくらぶ」のメンバーの方々が歩きながら、鳥や生き物を教えてくださいました。参加者は、初めての人から、生き物や鳥に詳しい方までいて、様々な質問が飛び交いますが、それぞれに丁寧に答えていました。

私は、初参加で、たくさんの生きものや鳥を教えていただいたのですが、残念ながらとても覚えきれません。思い出せるのは、泥の中のハゼ、爪が鮮やかな赤色のカニ、干潟の中にずっと立つサギ、黒山のように集まっているカワウ、クッションのようにふかふかのオレンジ色のキノコ、鴨場付近のうっそうとした竹林、などです。青い空を背景に、干潟の上を鳥たちが羽ばたく情景は、気持ちを開放的にしてくれました。

観察会のあと、ほごくらぶの販売グッズの紹介があったので、ミニタオルを購入しました。かわいい鳥のデザインとユーモラスなハゼのデザインの 2 種があり、迷った末、ハゼを選びました。

「NPO 行徳自然ほごくらぶ」が行っている、湿地帯の管理や野鳥の救護、観察会情報などはこちらからご覧になれます。

<https://gyotokubird.wixsite.com/npofgbo>

保護区の入り口



鳥の群れ



干潟の生きもの達



キノコや竹林



出発時は引き潮



戻って着た時は満ち潮

